

「高倉の昔ばなし」

六番 天へ昇った男

平成十四年一月二十日
高倉郷土芸能保存会

木 エンヤ 坂田サ行くさげマメ出るチャ はやりカゼなどひかねえように

解 其の昔、入間川に日光街道を行く渡し場があった。近くの広瀬村から毎日こ

こへ来ては、川を渡るわけでもなく、遠く高倉を眺めては、

『高いなあ、高いなあ。』

と云っていた少々調子に乗りやすい若者がいた、今日もまた同じように

若者 「高いなあ、高いなあ、どうしても高いなあ、」

解 と云っていると、渡し舟の船頭が来て

船頭 「おおう、若えのう、たまにやあ舟い乗って見ろい」

若者 「ああ唯乗つけてくれんのかあ、有難えなあ、乗付けてもらあでえ、おっこい

しよつと」

〜出る〜

船頭 「いいか、じゃあ出すど、おっこらしよつと、おめえ高倉あ、よつぽど好きな

ようだが、たかくれ高倉え行つて見てえか」

若者 「うーん、おらあまあだ高倉あ、一回も行つたこたあねえから、行つて見たく
つてしようがねえだあ、あつけえ登つたら、方々よくめえべえなあ」

船頭 「そりやあ、どこだつてみんな良くめえちまあなあ、けんど高倉あ、こつから
見んと上がてえらだがなあ、真中あたりにつのつとうがあつてな、そかあもう
雲ん中まで行つててなあ、そつから天ねえ登れんとよう」

若者 「へーえ、ふんとうかなあ、こりやあたまげたなあ、舟も着いたし、おらあ高
倉え行つて天い登つてんべえ、登つてんべえ、ぢああ、あばよ、おっこいしよ
つと」

〇〇四丁目、舞台下まで走る

若者 「ああ、ああ、こりやあひでえ坂だなあ、ああ、ああ、やつと頂上かあ、

振り返り手をかざし

ふーん高倉あ高えなあ、よくめえんなあ、渡し場なんか
すぐそこだア、あつくにめえんなあ、お不動だなあ、こらあどこでもめえらあ。

開幕

はーて天い登んとかあどこだんべえなあ、ここんちで聞いてんべえや
三人位カチカチとトウシを作る

今こんちはおいさん、おもしれえもん作ってんなあ、こりやあにゆうするもんだい」

長十郎 「あれえ、お前えみつけねえヤローダなあ。ああ、こりやあなあ、米や麦うふるくトウシだあな、若えしどっから来たい」

若者

「おらあ、おいさん広瀬村だあ、每んち每んち高倉あ見ちやあ一回登って見えてお思ってただあ、さきなあ渡し場のおじいがあなあ、高倉にやあ天い登れんところがあるつちゆうだよ、おらあうったまげてふつとんで来ただあ、おいさん天へ登んとかあどこだい、おせえてくらっしええよ」

長十郎

「おめえ、あにゆう馬鹿あゆってんだ、天へ登れんところだと、そんなとかあ有る訳ああんめえ、おめえだまされて来たなあ、なあ弥きさん、そんなとかあねえなあ」

弥吉

「まっただくだあ、ありやあおれえらがとづくに登ってらあい、なあ浜さん」

浜吉

「うーん、若わけえし、そんな夢え見てねえで早くうち行ったほうがいいよう」

若者

「あんだい、あんだい、みんな隠おせつしやつてよう、教おせえたつていいじゃあねえかよう 浜吉の頭をねじり乍ら おせえろよう、おせえろよう、おせえろよう、おせえろよう」

浜吉

「痛おせててえ、あにゆうすんだよう、よせよう教おせえんからよう、こつちに行つてよう、一丁ベえをこつち曲おせった梵天山だあ」

若者

「おおっありがとよ、ぢや登おせつてくるよ」

〇〇四丁目でかけ行く

弥吉

「浜さん、あんな出まかせゆつて梵天山なんか教えてどうすんだよう」

浜吉

「だって、ああでもゆわなけりやあ首が折つぴしよけちまあい、無ねえと訳りやあうちいかいんべえよう」

弥吉

「うんそれもそうだあ、だけんどあんな若えしいだまして、ひでえやつも居るもんだなあ、あつ野郎きあやがった」

若者

「だーい、うそをゆつてあつくにやあ天い登んとこなんかありやあしねえじゃねえか、天のぶへ登ふんとうる本当の場所を教おせえろよ、さあどこだよ、さあどこだよ」

浜吉

「ああすまねえ、すまねえ、本当はこっちい、二丁べえ行つた突当りの氷川様の山だあ、けんどあつかあガケべえだからあぶねえから教えなかつたあ、すまねえ、すまねえ」

若者

「こんだあ本当だんべな、じゃあ行つてべえ」

〇〇四丁目、若者が行つたあと

長十郎

「浜さん、おめえ追いつめらいて、又又出まかせえゆつて、今の若しの勇んで言つた姿あみたんべよ、あの分じゃこんだあ帰つて来たたらあにいされんか訳んねえで、どうすんだよう浜さん、とにかにみんなかくねんべーや」

皆

「うんかくねんべえ、かくねんべえ」

解

こうしてみんなしばらく隠れていたが、若者は天へ昇つたか、とうとう戻つて来なかつた。
まさか天へ昇る訳はないが、あちらこちらとかけ廻り疲れて帰つたのである。
しかし、この高倉に天へ登る所があると聞いて来たとは何とも夢のある話ではないか。

配役	氏名	囃子等	氏名
若者	うえみち屋 章	解説	しちに屋 洋一郎
船頭	しんでん屋 嘉幸	笛	ほとけ屋 甲平
長十郎	天王山 透	太鼓	宮の久保 吉司
浜吉	しま仲屋 昇	付	高一屋 要作
弥吉	そうめん屋 正行	木	たきざか屋 好男
		幕引	そうめん屋 照正